

令和8年2月定例会一般質問発言通告表

発言 順序	5	議席 番号	13	氏名	辻 村 岳 瑠 議員	1 / 2
発言項目				要 旨		答弁者
1	生ごみ対策に先行すべき一石、使用済み紙おむつ再資源化の優先的検討について			<p>本市の一般廃棄物処理基本計画の中間見直しを、単なる振り返りで終わらせず、後半5年間の具体的かつ戦略的な実行計画とするべく、以下の3点を伺う。</p> <p>(1) 本計画の中間見直しは、単なる過去5年間の形式的な総括で終えてはならない。依然として分別収集の課題として残る「生ごみ」と「使用済み紙おむつ」。これらを単なる廃棄物としてではなく、循環型社会への転換点と捉え、実効性ある次の一手を投じるべきと考える。</p> <p>本市はこれまでの5年間で、プラスチック再資源化において確かな成果を上げてきた。この「分別の定着」という成功体験は、市民の協力と当局の努力の賜物として高く評価されるものである。</p> <p>残る5年間で取り組むべき「生ごみ」や「使用済み紙おむつ」の再資源化を、清掃センターの長寿命化、最終処分場の延命化、そしてゼロカーボン目標という課題に対し、どのように戦略的に位置づけ、具体的成果に結びつけるのか、本業務の委託にあたり、市の見解を伺う。</p> <p>(2) 「生ごみの再資源化」の重要性は理解しており、市が進める「生ごみはギュッとひとしぼり！」等の啓発は一定の浸透を見せていると考える。</p> <p>しかし、昨今のクマの出没状況を考えると、生ごみの家庭保管や集積は野生動物を人里へ引き寄せる原因となり、市民の安全を脅かすリスクをはらんでいる。さらに、生成された液肥の活用先も不透明なままである。</p> <p>一方、使用済み紙おむつは生ごみと同様に水分が多いため、焼却炉の腐食を早め、また、燃焼温度維持のために多大なエネルギーを消費し、膨大なCO₂排出の要因となっている。</p> <p>これらを総合的に判断すれば、生ごみ対策以上に「使用済み紙おむつの再資源化」を最優先課題として位置づけるべきと考えるが、当局の認識を伺う。</p> <p>(3) 新たな資源化施策の導入において、最大の障壁となるのは市民の理解と協力、すなわち「分別の壁」である。</p> <p>一般家庭に新たな負担を求める前に、まずは排出元が特定されており、質・量ともに安定した分別管理が確立されている、市内の病院や介護施設等から排出される「事業系使用済み紙おむつ」の再資源化を先行させるべきと考える。施設単位での回収は収集効率も高く、不純物の混入も抑制できるため、資源化のモデルケースとして極めて有効である。</p> <p>現在進められている一般廃棄物処理基本計画等の中間見直しにおいて、まずはこの「事業所先行モデル」を導入し、再資源化の具体的な道筋をつけるべきと考えるが、当局の検討状況及び今後の方向性を伺う。</p>		市 長 副 市 長 教 育 長 関 係 部 長

令和8年2月定例会一般質問発言通告表

発言 順序	5	議席 番号	13	氏名	辻 村 岳 瑠 議員	2 / 2
発 言 項 目				要 旨		答 弁 者
2		法定外目的税で描く 財政デザインについて		<p>(1) 人口減少を背景に、将来の税収減を見据えた「縮小」や「緊縮」の議論が目立つ。</p> <p>しかし、本市の税収が堅調な「今」こそ、次世代に向けた新財源を自ら創出する「挑戦」が必要ではないだろうか。本市には、世界遺産富士山や広大なキャンプ場群など、国内屈指の観光資源がある。今、求められているのは、既存の税収にのみ頼り、市民に負担を強いることではない。地域のポテンシャルを生かし、「外貨を稼ぐ」戦略への転換である。</p> <p>静岡県が導入した「富士山入山料」により、年間約4億円の新たな収入が見込まれている事実は、目的が明確であれば受益者負担の導入は十分に可能であることを証明した。本市においても、宿泊税や独自の環境税といった「法定外目的税」の導入を本格的に検討すべきである。</p> <p>こうして創出した財源を、「使用済み紙おむつ・生ごみの再資源化」や「ゼロカーボン施策」、さらには「観光インフラの高度化」へと再投資する。この好循環こそが、市民の負託に応える負担軽減と、本市の価値を飛躍させるブランド戦略、この両輪を回すための突破口である。</p> <p>周辺自治体との競争や事務負担を理由に立ち止まるのではなく、人口減少を「衰退の言い訳」にしない、自立した自治体経営が不可欠である。本市の持続可能な発展に向けた「攻めの財政デザイン」をいかに描くのか、当局の見解を伺う。</p>		市 長 副 市 長 教 育 長 関 係 部 長